

ごあいさつ

この中央公会堂は中之島1丁目にありますが、1970年代の大阪大学交響楽団(阪大オケ)の練習場は中之島4丁目にありました。当時そこは旧理学部の廃屋でしたが、現在は国立国際美術館が建っています。本日の出演者とスタッフは全員が当時の阪大オケチェロパートのメンバーです。2015年にこのアンサンブルを結成後、2016年と2018年にコンサートを行い、3回目の2020年はコロナ禍で止む無く中止。3年を経てやっと今日を迎えることが出来ました。この間にメンバーの大半は准高齢者となり、その影響が随所に現れ始めていますが、今日ばかりは年齢やコロナ禍を乗り越えて練習に励んできた成果を発揮できればと思います。どうぞお楽しみください。

この3年の間に私たちにとって大切な人を相次いで亡くしました。

一人はこのアンサンブルの創立時からマネージャをしてきていた村上辰一さん。阪大オケではチェロ奏者兼マネージャでした。そもそもこのアンサンブルでコンサートを開く話になった背景には、彼がマネージャを引受けてくれるという大前提がありました。今日彼が居ないながらも3回目のコンサートを開くことができるのは、彼が残してくれた遺産のお陰です。

もう一人は、私たちのチェロの師匠で元大阪フィルハーモニー交響楽団チェロ奏者の安藤信行先生。出会いは丁度50年前。先生はまだ20代で兄貴のような存在でした。レッスンは単にチェロを教えるだけでなく、私たちの感性を刺激して新しい世界に導いてくれるものでした。後年このアンサンブルでもレッスンをしていただき、多くの気づきを与えてくれました。私たちがこの歳になってもこうして演奏活動を続けられているのは正に先生のお陰です。

本日のプログラムは3年前に決まっていたので生前のお二人もご存じでした。その最初の曲、ゴルターマン作曲の「レリジオーソ(敬虔に)」を、追悼と感謝の意を込めてお二人に捧げたいと思います。

2023. 9. 24

チェロアンサンブル中之島